



まほろん通信

VOL.15

(平成 17 年 1 月 15 日発行)
(財) 福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835

白河市白坂字一里段86
TEL 0248-21-0700 (代)
FAX 0248-21-1075

URL <http://www.mahoron.fks.ed.jp>



今年度のおでかけまほろん

「おでかけまほろん」は、当館の職員が学校等に出向いて体験学習を支援する事業で、今年度は、15の学校や市町村教育委員会のみなさんにご利用いただきました（延べ利用人数約600名）。種類別の内訳は、小学校13校、中学校1校、市町村教育委員会1カ所です。また、地方別では、中通り7カ所、浜通り4カ所、会津4カ所となっています。

体験学習メニューでは、火おこし体験が一番の人気ので、14の学校・団体で実施しました。今年度は、この中でも学校行事の中に火おこし体験を組み込んだ学校があったことが、例年になく特徴となっています。上の写真は9月1日に館岩村立館岩小学校で行われた全校行事「川遊び」の中での1コマで、捕まえた魚を焼くためのカマドの種火として活用いただきました。他に天栄村立湯本小学校では全校行事「ふれあい交流会」の芋煮を作るカマドの種火として活用いただいています。おでかけまほろんで提供する様々な体験学習メニューを社会科の授業にそのまま活用するだけでなく、学校行事の一環として活用していただくのもまた面白い活用方法かと思えます。

来年度は、17カ所でおでかけまほろんを実施する予定です。2月初めに募集しますので、どうぞお申し込みください。

今年度のまほろん探検隊

まほろん探検隊も、第4次ともなると1年間を通して活動するメンバーの中にも「常連」の顔が見えるようになってきました。

今回からは「まほろん森の塾」と名称も新たに、1次から3次の内容を統合し、縄文時代と弥生時代を織り交ぜた形で新しい活動もたくさん取り入れてみました。

5月の結団式には、県内外の小中学校から17人の隊員が集まり全員で田植えをしました。初顔合わせということで心配もありましたが、みんなで泥にまみれてあっという間に打ち解けていました。

6月には、シカの角を砥石で磨いて釣針を作り、シノ竹で釣竿も作って、実際に館外の沼に釣りに出掛けました。魚は釣れませんが、みんなとても印象深かったようです。この後は隊員全員で夕食の準備をし、初めてまほろんにお泊りをしました。

7月には探検隊でははずせない石器作りです。昔の人が実際に使った、黒曜石という石を材料に矢ジリを作り、竹を用いた矢も完成させて、体験広場で試し撃ちをしました。7月はボランティアイベントにも参加し盛り上げたりと、活動以外の場でも活躍してもらいました。

8月の縄文耳飾り作りは、みんな初めてにしては大変な力作ぞろいでした。その後には、縄文時代の土器や土偶についているような文様を自分の腕や足につける、ボディペインティングも体験してもらいましたが、子供達には普段できないこちらのおしゃれの方が楽しかったようです。

9月は8月に続き、縄文のアクセサリーということで



＜5月の田植え体験＞

1～3月の行事予定

期日	体験メニュー	体験内容	募集締切	募集人数	対象	材料費
1月22日(土)	石器づくり	石を割って石器をつくります。	1月7日	20名	小学生以上	200円
2月13日(日)	縄文時代の櫛作り	竹ヒゴを使って、櫛をつくります。	2月4日	20名	4年生以下は 保護者の付き 添いが必要	100円 -
2月20日(日)	土器の野焼き5	1月に作った土偶、土面の野焼きをします。	-	-		
3月13日(日)	古銭づくり	型を使って古銭をつくります。	3月5日	20名		100円
2月6日(日)	第1回毬杖大会	中世の和式ホッケー「ぎっちょう」の大会です。	1月29日	20名	どなたでも	無料
3月20日(日)	第2回毬杖大会	中世の和式ホッケー「ぎっちょう」の大会です。	3月11日	20名	どなたでも	無料
まほろん文化財講座						
2月12日(土)		私が掘ったあの遺跡 - 県北 - (講師: 当事業団職員)	先着順	60名	どなたでも	無料
3月12日(土)		私が掘ったあの遺跡 - いわき - (講師: 当事業団職員)	先着順	60名	どなたでも	無料



＜6月の春のお泊り会：縄文時代の家で食事＞

ウルシ塗りのクシを作りました。6～8本ほどの竹グシを糸で結んで固定していく作業には、だいぶ苦戦していましたが、ウルシを塗ってみたら一つ一つ味のあるあざやかな赤いクシに仕上がりました。

10月は、5月に植えた古代米をみんなで収穫の予定だったのですが、田植えをしたときの苗の状態があまりにも良くなかったこともあり、米作りの難しさを身をもって体験する形となりました。米は収穫できませんでしたが、まほろんボランティアのみなさんのご好意でボランティアの管理する畑のサツマイモの収穫をして秋の実りを満喫することができました。

11月の活動は、最終日とあって全員休まずに参加してくれました。2度目のお泊り会ともなると慣れたもので、まず森へ食料を探しに出かけて、たくさんの植物を見て歩きました。食事の準備も、各自の割り当てられた仕事をこなし、作った縄文鍋はこれまでの成果が発揮できたのか、今までになくおいしい味になりました。星のきれいな寒空の下、テントでの就寝となりましたが風邪も引かずに朝を迎え無事終了することができました。

第4次は天気にも恵まれ、たくさんの方々のご協力のもと最後まで楽しく活動することができました。体験するだけではなく、技術を自分のものにするということは、大人も子供も楽しく、また新しい目線での発見もあったようです。これまでの活動を通して作った作品を常設展示室の「みんなの研究広場」に展示しています。探検隊の成果と成長をぜひご覧になってください。

来年度の第5次探検隊も新しい隊員が増えることを楽しみにお待ちしております。

(隊長 甲賀寿美恵)

春のてんじ案内

新編陸奥国風土記

—巻之四 磐城郡—

期間 3月12日(土)～5月15日(日)

まほろんの春のてんじは、平安時代に編纂された「和名類聚抄(わみょうるいじゅうしょう)」に記載された古代の郡(こおり)にあたる地域ごとに、当館で収蔵される資料をご紹介します。

今回は「巻之四、磐城郡」といたしまして、現在の勿来地区を除いたいわき市から双葉郡大熊町までの地域を取り上げます。

古代の磐城郡は、平安時代の終わり頃に楢葉郡が分かれませんが、それまでは福島県浜通り地方の南半分にあたる広大な地域をひとつの郡として治めていました。そのような地域で当館の収蔵庫に保管されている資料は、主に常磐自動車道路を建設するため事前に調査を行った遺跡のものです。福島県教育委員会では、いわき市四倉地区以北の高速道路の沿線にある遺跡について発掘調査を行っています。

そのため当館が収蔵する資料は磐城郡内でも北側部分のものに限られますが、当時の人々が生活した様子がうかがわれる多くの遺跡が見つかっています。

今回の展示では、古代末に楢葉郡として分立する双葉郡楢葉町を中心とした遺跡を時代ごとにご紹介し、磐城



＜大猿田遺跡からみつかった木製の鋏＞

郡内に存在する古代の生産遺跡に焦点を当てた展示を企画しています。

生産遺跡としては、いわき市四倉地区の仁井田川上流域に、須恵器・土師器窯、製鉄炉跡、木炭窯跡などが発見された複数の遺跡が存在します。特に、そのうちの大猿田遺跡では磐城郡の官営工房として、農具、武具などの木製品を作っていたと考えられています。遺跡からは未完成の木製品とともに、官営工房を裏付ける木簡や墨書土器が出土しており、貴重な木質遺物や文字資料がご覧いただけます。

以上のような展示を予定しておりますので、どうぞ、「春のてんじ『新編陸奥国風土記—巻之四 磐城郡』」に足をお運びください。

まほろん研究ノート

古墳時代の新たな楽器？

今年のまほろん「秋のてんじ」の中で、当時の芸能や習俗を示す代表的資料として、泉崎村原山1号墳の埴輪を展示しました。その中に「冠をかぶった男子」と呼ばれている埴輪があり、左手は手のひらを上に向け、何かを持ち上げるように指を曲げています。肩にも剥がれたあとがあり、何かを担いでいたようです。この埴輪が何を担いでいたのかは不明でしたが、平成14年に調査された埼玉県東松山市下松5号墳から出土した埴輪から、それがわかってきました。その埴輪の左肩には、長台形の板に弓のようなものを貼り付けたものが乗せられ、似た例として原山1号墳の埴輪も紹介されたのです。

以前から、この弓と板のような道具については、弓そのものとする考えと、琴のような弦楽器とする、二つの意見がありました。まず、これを弓とするならば、板はどう考えればいいのか。確かに粘土で弓を表現する上では、強度面で台が必要とも考えられます。しかし、側面に段が付いたり、線が刻まれる例もあるなど、弓と板とで一つの道具のようにもみえます。まほろんではこれを弦楽器とする意見にもならい、木の板に弓を括り付け、音を鳴らしてみました。その結果、弓だけではほとんど鳴らなかった音が、共鳴により大きく増幅されることがわかりました。共鳴板の厚みを変えて比べた場合でも、音量に大きな変化はみられませんでした。琴



＜「冠をかぶった男子」と「弓？楽器？」泉崎村原山1号墳(福島県立博物館蔵)＞

のように箱造りにすれば、また変化があるかもしれません。音質はやはり現代の琴に近いものでした。

バイオリンのように右手の弓で弾いたのかもかもしれませんが、どの埴輪の例も右腕は失われており、残念ながら弾き方ははっきりとしません。今後、各地の調査や研究により新事実が得られれば、私たちの前に当時の未知の楽器、ひいては音楽そのものが復元される日がくるかもしれません。(主任学芸員 木村直之)

＜参考文献＞

『琴か弓か』上松本遺跡速報展 東松山市教育委員会(2004)

研修課より

平成16年10月23日(土)～24日(日)、原町市教育委員会のご協力で、原町市桜井古墳公園ガイダンス施設において「体験学習支援研修3」を開催しました。今回は粘板岩を割って石包丁の形に磨くところから、紐を通す孔開けまでの工程を研修いたしました。

12月8日(水)～9日(木)には時代別研究研修が当



<石庖丁に穿孔する>

総務管理課より

☆ まほろん紹介 ☆

～まほろん図書館編～

みなさんまほろん図書館をご存じですか？

まほろん図書館は、まほろんショップのとなりにあります。図書館と呼ぶには小さなスペースですが、歴史に関する本がたくさん置いてあります。中でも考古学の本が多く、考古学の雑誌、土器や遺跡の事典など専門的な本もそろっています。他にも、歴史や民俗学の本などもあります。漫画やイラスト、写真を多く取り入れた本もたくさんあり、小・中学生でも抵抗なく読め、歴史について気軽に学べます。また、当館の藤本強館長の著書もあります。貸出はしていませんが、まほろん図書館のとなりにあるプロムナードギャラリーにはテーブルとイスを設けていますので、来館された方はいつでも自由に読書を満喫できます。調べたい事があれば、職員に質問して下さい。

宿題の参考となる本が見つかるかもしれませんよ？
《こんな本があります》

まほろんからのお知らせ

おでかけまほろん募集

来年度のおでかけまほろんを2月初めに募集します。来年度は今年度より2団体増やして、17団体を予定しています。

ホームページや案内をご覧になって、是非お申し込み下さい。



<時代別研究研修のようす>

館で行われ25名の方が受講しました。テーマは「福島県の縄文時代晩期～弥生時代の遺物」で、当事業団の芳賀英一専門文化財主査の講義と、数多く展示した縄文時代晩期土器・弥生土器の観察を交えながら進めました。

2月19日(土)に山形大学の三上喜孝先生をお招きして、「専門考古学講座II」を開催いたします。古代文字資料研究の可能性や研究方法などについて、実際の出土資料を手にしなが研修を進めてまいります。



『考古学は楽しい』藤本強 日本経済新聞社

『縄文式生活技術教本 縄文人になる!』関根秀樹 山と溪谷社

『やってみよう縄文人生活』岡村道雄 KTC中央出版

『縄文土器大観』小林達雄編 小学館

『マンガ 日本の歴史』石ノ森章太郎 中央公論社

『アイスマンー5000年前からきた男』デイビッド・ゲッツ 金の星社

そのほかにもたくさんそろっています ☆

ご利用案内

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は開館し、その翌日が休館)、国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)

入館料 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります。)

その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。